カーシェアリング・フォーラム２００３開催報告

２００３年１１月２２日、東京国際フォーラムにおいて「カーシェアリング・フォーラム２００３」を開催しました。
当日は休日にもかかわらず、１５３名の方々にご参加いただき、大変ありがとうございました。

現在、報告書を作成中ですが、一足先に写真やグラフを使って主なポイントを報告いたします。

会場の様子

● カーシェアリング・フォーラム２００３からの抜粋

（１）内外のカーシェアリングの動向（当財団　市丸）

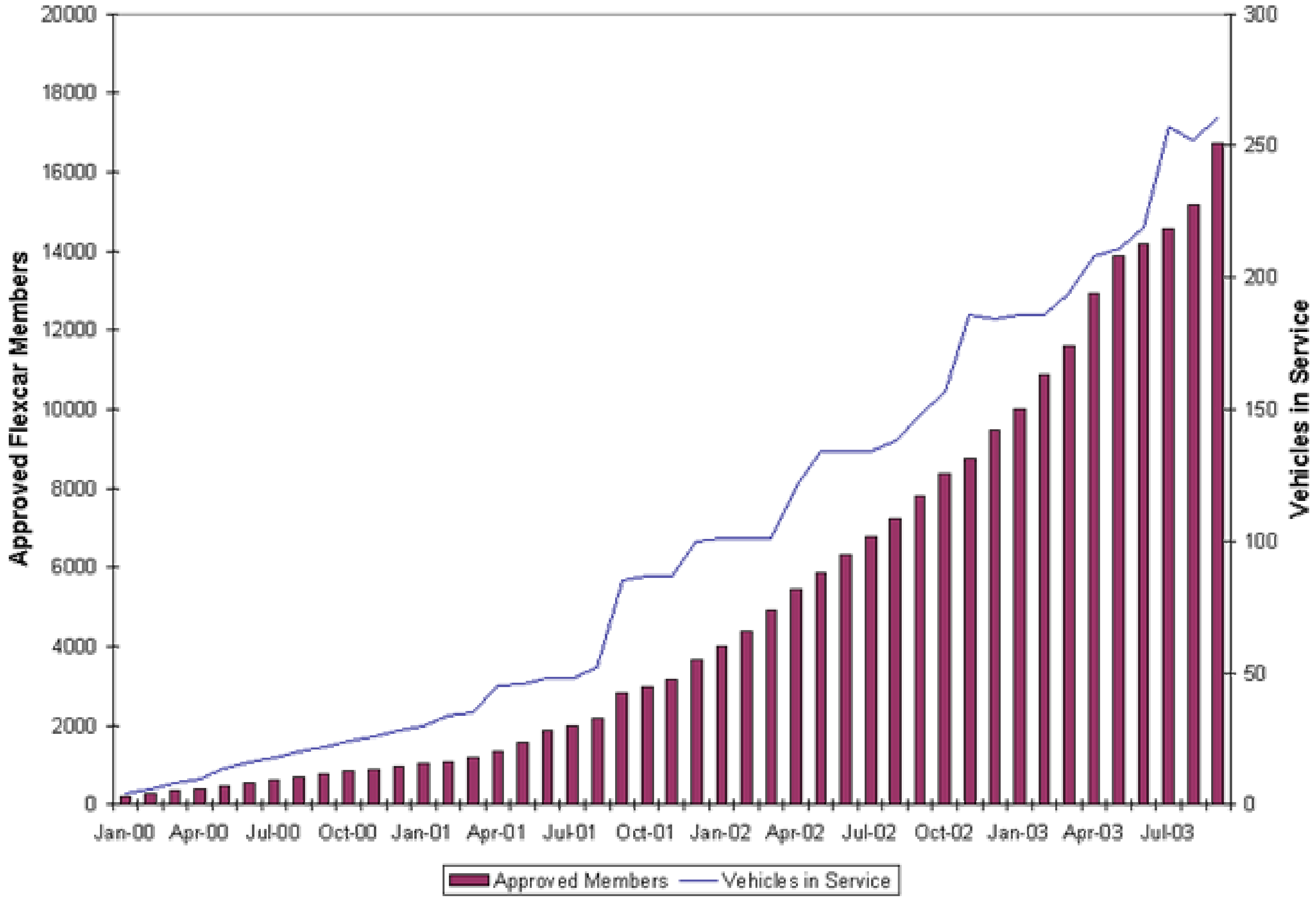
　ドイツの都市で導入された多目的ＩＣカード（下の写真参照：カーシェアリング利用、公共交通機関利用、買い物が可能）、ドイツ鉄道によるフランチャイズ方式でのカーシェアリング全国展開、イタリア環境省によるカーシェアリング立ち上げ支援のための制度などを紹介しました。

出所：http://213.170.188.3/moses/

（２）米国フレックスカー社経営者の講演
（最高執行責任者デービッド・レオンハート氏）

レオンハート氏はフレックスカー躍進の要因として、(ｱ)各地域で公共交通事業者との協力関係を築くことにより、会員獲得を効率的に進めたこと、(ｲ)先進技術を導入し、会員の利便性向上、運営コストの削減、収益管理の強化を図ってきたこと、(ｳ)当初は個人主体であった会員構成を修正し、法人顧客獲得にも注力していることーなどを挙げました。

フレックスカーの事業規模拡大の推移



（３）国内の先駆的取り組みの報告

①NPO 法人カーシェアリングネットワーク（小池寿文氏）

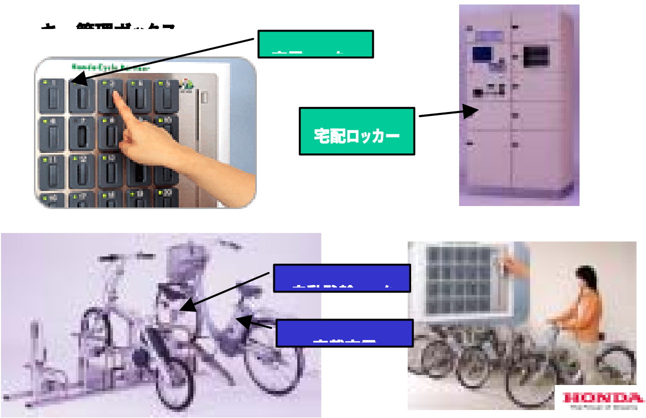
環境 NGO、自治体、企業の協働により福岡でカーシェアリング事業を展開しています。
課題は、車両の半分を占める電気自動車の稼働率向上、運転資金の調達などです。
（車両２４台、会員数１５６人）

②シーイーブイシェアリング株式会社（高山光正氏）

国による横浜地区での電気自動車共同利用実験を引き継いで設立されたわが国初のカーシェアリング事業会社は、会員数４５０人超、車両２４台、車両ステーション１０個所になりました。
課題は、全国各地のカーシェアリング事業者がインターネット経由で当社の管理センター機能を共用できるASPシステムの利用事業者を増やすことです。
（→ ビデオを活用した報告でした。）

③本田技研工業株式会社（矢野俊二氏）

当社は94年から共同利用の研究に着手し、その後内外で様々な実験を手がけており、シンガポールでは現在、マルチポート・システムでのプロジェクトをハイブリッド車30台で実施中です。国内でもマンション向けの電動アシスト自転車共同利用システム（右写真参照）を既に販売しており、これの四輪版を実験中です。



④西尾レントオール株式会社（西尾公志氏）、サコス株式会社（飛田政明氏）

両社は、建設事業者向けにトラック、バン、ダンプ等の業務用車両の共同利用サービスを提供するシステム（mobi－system）を開発し、実験中です。

⑤神奈川県県土整備部都市計画課交通企画班（最上祐紀氏）

神奈川県は、パークアンドライドとカーシェアリングを組み合わせたエコ・パークアンドライドシステムの社会実験に関与し、同システムの実現可能性を確認しました。

（４）パネルディスカッション

コーディネーター

青木英明氏（共立女子大学家政学部 助教授）

パネリスト

岩渕　篤氏（国土交通省自動車交通局旅客課新輸送サービス対策室 室長）

高山光正氏（シーイーブイシェアリング株式会社 執行役員）

松本利典氏（阪急彩都開発株式会社 企画部長）

小池寿文氏（特定非営利活動法人カーシェアリングネットワーク 専務理事）

吉田直樹氏（特定非営利活動法人志木の輪 理事）

平石浩之氏（株式会社日本能率協会総合研究所社会環境研究本部 研究員）

阪急彩都開発の松本氏は、開発途上の大阪北部のニュータウン「彩都」において、2004 年春に開始予定のマンション住民等を対象としたカーシェアリング・サービスを紹介されました。

志木の輪の吉田氏は、埼玉県の志木ニュータウンにおける長年の駐車場不足問題の改善を目的として、事業としてのカーシェアリングではなく、住民同士での車の共同所有・共同利用の実現に向けて取り組んでおられ、その苦心談をお話いただきました。
（→　緑の多い志木ニュータウンの風景）

岩渕氏は、慎重なご発言ながら、カーシェアリング普及のための法規制面での課題解決の必要性を認識されているようでした。

平石氏は、日本におけるカーシェアリングの今の状況を、数十年前のハンバーガー上陸の頃にたとえ、初めはなじめない文化に思えても、いずれ定着するのではないかと話されました。

小池氏は、カーシェアリング組織論に触れ、事業規模により NPO が適していたり、株式会社が適していたりするかもしれないこと、中規模の事業の場合は組合員から出資を募れる協同組合も検討の余地があるのではとの感想を述べられました。

高山氏は、カーシェアリング組織相互間や、カーシェアリングと他の交通機関との連携が、利用者にとってのカーシェアリングの利便性を高めることを指摘し、ネットワークの重要性を強調されました。

●展示風景
５団体がパネル展示を行いました。

●交流会風景

プログラムの最後の交流会には、フレックスカーのレオンハート氏を初め、報告者やパネリストの方々も加わり、全国から集まった参加者と話が弾みました。

●会計報告

【収入】

項目	金額（円）	説明
当財団予算	1,600,000	
シンポジウム参加料	254,000	@2000円(ﾏｽｺﾐ、登壇者等は無料)
報告書販売代金	50,000	@500円、100部
合計	1,904,000	

【支出】

項目	金額（円）	説明
講演者・報告者等謝金	100,000	海外講演者1人、国内報告者等9人
講演者・報告者等旅費	449,840	米国1名、国内3名
通訳料	147,000	逐次/同時通訳2名・英語
報告書等作成・発送費	489,550	当日配布資料200部。報告書300部
会場費	717,610	東京国際フォーラム　ホールD5
合計	1,904,000	

（注）報告書関係は見込みの数字です。

以上